

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、昨年はCOP 10が名古屋市で開催されました。これに関連し、本市でも3月に生物多様性をテーマとした市民対話集会「おかざきラウンドテーブル」、9月には、生物多様性の意義について広く知っていただくため「生物多様性市民フォーラム」を皆様のご協力をいただきながら無事に開催することができました。改めまして御礼申し上げます。

このCOP 10では「愛知ターゲット」が採択されました。「愛知ターゲット」とは主に2020年に向けて、生態系の保全を中心とした国際目標です。主な内容は、①生物多様性の認識を高める②持続可能な漁業を促進する③絶滅危惧種のなかでもっとも減退している種の保全状況を改善する④悪化した生態系の15%以上を回復する⑤陸地については17%、海域については10%を保全する—など、特定しやすい数値目標や、2020年や2015年までといった期限

が付いていることが特色となっています。本市としても、北山湿地をはじめ生態系の保全を、今後も皆様と協働で進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

2011年がみなさんにとって、素晴らしい年となることを期待して、挨拶とさせていただきます。(岡崎市役所自然共生課)

北山湿地を守る活動

【12月の作業内容(18日(土)9時~正午) 参加19人】①B~C湿地にかけて沢の整備②A湿地除草③K湿地周辺のササ刈り

新年を迎えた北山湿地はしんと静まりかえっています。やなが沢池や各湿地では、日陰では水



面に薄い氷が張り、霜柱が立っているところも。じつとし

ていると、体の芯から冷えてくるような寒さ。植物は枯れ果て、昆虫の姿もなし♣こんな時期ですと、逆に何か見つけたくなりますね。普段は見過ごすような落ち葉の下や積み重ねられた朽ち木のすき間、水の中などをついてみたり。下ばかり見て歩



自然が作った氷の芸術(小呂町)

いていたのが樹木を見上げ、葉や花芽を観察したり。意外な発見があるかもしれません♣沢を見ると、1頭のシマアメンボが。こんな時期にと思いきや、昨年



もやはり同じ頃に1頭確認しています。昆虫に詳しい会員によれば、アメンボは成虫で越冬するそうですが、その観察記録はほとんどないようです。貴重な発見!?かは別として、日向

では水面でも多少は暖かいのでしょう♣12月の作業では、8月から行ってきた沢の整備が完了。多数の堰を設けた初めての本格的な沢の手入れとなりましたが、今年も何度か発生するであろう豪雨に対しどれだけ効果を発揮するか検証を要するものの、期待したいものです♣冬期は被圧植物などの刈り取りを集中的に行う時期です。根こそぎ抜き取



ることがベストでしょうが、刈り取りだけでも希少種などに一定の効果があることがわかり、一部では刈払機も動員して春に備えます。

《千万町茅葺屋敷の葺き替え作業者募集！》現在の売店建物の茅葺き屋根を約30年ぶりに葺き替えます。【期間】2月16日～3月5日【募集要項】1日当たり4人。茅の上げ下げ、選別など。作業のできる服装、軍手持参。詳細は同屋敷まで（火曜定休 ☎83-2590）。※森の駅2月のプログラムは同ホームページまたは市政だより1月15日号をチェック。

新年はおおだの森から



平成23年1月1日、水とみどりの森の駅のひとつ「おおだの森」(夏山町)で、毎年恒例行事となった初日の出を見る会が開かれました。毎月実施される森の駅プログラムの中でも最も人気のあるもののひとつ。早い人は6時前からふもとの鬼山八幡宮より頂上へ登り、おおだの森の保全活動を行っている山留舞会によるコーヒーや豚汁

の接待を受けて冷えた体を温めながら、日の出を待ちます。

去年は降雪により参加者も少なく、日の出も拝めませんでした。今年も怪しげな雲行き。道路の橋は真っ白に凍っていましたが、雨や雪は降らず、150人が思い思いに頂上に集まりました。7時7分頃、晴れていれ



ば東方に連なる山々の頂から昇る日の出を拝められませんが、今年ほどどんよりとした灰色の雲が頂を覆い、雲を赤く染めながらも太陽が見えません。残念がる参加者。それでも粘り強く待っていたとこ

ろ、20分、横たわる黒雲の上に太陽が現れました。わき上がる万歳三唱。太陽はまもなく再び雲間に消え、現れることはありませんでした。まさに寒さをこらえて待ち続ける参加者のために顔を出してくれたのでしよう。すがすがしい新年の到来です。

こちら恒例となった冬のバードウォッチングの開催です。去年はオオタカ、カワセミ、ゴイサギ、メジロなど29種が確認できました。【日時】1月29日(土)9時～正午(雨天は翌30日)【場所】おかげぎ自然体験の森(八ツ木町)【集合場所】同森の管理棟【講師】岡崎野鳥の会【持ち物など】筆記用具、飲み物、あれば双眼鏡・望遠鏡、軽装【その他】申し込み不要、直接会場へ。参加無料。参加者には記念品あり【問い合わせ】自然共生課自然保護班まで(連絡先は本紙表面欄外に記載)。

きたやま歳時記⑦

夜間のシカウォッチング

シカを見に行くようになったのは、平成6年(1994)の夏からだ。主に切越や蓬生に出かけたが、時折池金や下衣文にも足を伸ばした。その目的は撮影である。どこもシカの存在は確認できるのだが、姿を見ることはそれほど容易ではなかった。シカだとはっきり確認できてもかなり遠いことが多く、ストロボの光が届かないため写せない。

平成9年8月28日、夜中の12時ごろ池金に行った時のことである。町の中を細い川が流れている。その川沿いに道があるのだが、車のヘッドライトを浴びて川にあるカキの木に2つの眼球が光った。すぐさま暗視鏡で確認するとハクビシンであった。



しかし、なかなかすばしこく、カメラを構えたときには木を降りて逃げてしまった。その反対側は水田である。暗視鏡を出したついでに見てみると奈良公園にいるシカのように見事なシカの群れがいた。相当数のため数えられなかった。電柵が施されていない田んぼは無残な結果であったが、シカは悠然と遊んでいた。

暗視鏡で見ていると全てのシカが私の方を向いていたのもちょっと異様な世界であった。鳥や獣をウォッチングするようになって身に沁みて感じられることだが、ウォッチングなんておこがましいことで、逆に人間がいつも野生動物に見られているのだ。シカにしてみれば少しでも生活圏を広げたいところであり、隙があればどんどん入り込んでくる。したたかでなければ生きていけないのが現実である。(文と写真/おかげぎ自然体験の森囃子員・元緑丘小学校教頭 三浦重光)

昨年10月、豊橋市美術博物館において「葦毛湿原展」が開催されましたが、これに関連して豊橋市教育委員会は『写真集 愛知県指定天然記念物 葦毛湿原の記録』を発行しました(A4判 オールカラー143



頁1000円)。湿原や周辺の里山の自然に関して、歴史的な視点から人間との関わりを中心に収集された最新

の資料を掲載。「湿原の変化」「保護活動の歴史」「葦毛湿原の自然」などの内容となっています。豊橋市美術博物館で販売中です(1月10日現在)。郵送も可能。詳細は同館までお問い合わせください(☎0532-51-2882)。